

## 2011 年度「日本女性学習財団賞」受賞レポート報告会

# パネル フォーラム **学びがひらく**

2011 年度「日本女性学習財団賞」大賞 1 篇・奨励賞 2 篇が決まりました。また、内容の興味深さや努力を称え、2 篇に選考委員特別賞を贈ることになりました。贈呈式および、大賞・奨励賞受賞者と選考委員によるパネル・ディスカッションを開きます。ぜひご参加ください！！

【大賞】 **学びがひらく 看護への道** 山下知子 (看護専門学校教員)

### 【奨励賞】

**日本の性暴力サバイバー支援の課題と今後** 田中麻子 (性暴力サバイバー支援団体代表)

**戦争に負けた日本を生きてきた私**—昭和 30 年代のはじめ、男女の給与格差の是正に  
体当たりし、今は Japanese as a Second Language (J.S.L) の児童・生徒の人権の為に走る—

田中秀子 (日本語ボランティア)

### 【選考委員特別賞】

**異文化相互理解の道をアメリカで拓いた先駆者**

—モダンダンス振付家・舞踊家—戸小枝子と憲法の男女平等の母ベアテ・シロタ・ゴードン

武田陽子 (女性史研究会会員)

**男性の立場から男女共同参画社会実現のために** 北村 亨 (市川メンズ家事クラブ会員)

## I 贈呈式

## II 講演「ころをつかむ文章」

講師: 足立則夫 (ジャーナリスト 選考委員長)

## III パネル・ディスカッション「学びがひらく」

パネリスト

日本女性学習財団賞大賞・奨励賞受賞者

大島英樹 立正大学准教授 選考委員

辻 智子 東海大学課程資格教育センター特任講師 選考委員

平井和子 女性史研究者 選考委員

コーディネーター: 足立則夫

**2012 年 2 月 17 日(金)**  
**午後 1 時 30 分~4 時**  
**日本女子会館** (東京都港区)

**定員: 30 人 (先着順)**  
**参加費: 1,000 円**

申込み  
問合せ

一步先へ! 輝くあなたを応援する

公益財団法人

**日本女性学習財団**

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 5F  
TEL: 03-3434-7575 FAX: 03-3434-8082  
E-mail: jawe@nifty.com http://www.jawe2011.jp

日本女性学習財団賞大賞

＜学びがひらく看護への道＞

山下知子さん(看護専門学校教員)

私は元々平凡な主婦であったが、離婚を機に自立をするため働き始めた。老人ホームで職を得て、高齢者の日常生活の援助をすることにやりがいを見出した。そして高齢者の死をきっかけに看護の道を志し、やがて看護教員の道を歩むこととなった。現在は看護学校で「老年介護学」を担当している。

高齢者の介護を通して、「老いる」ことや「健康」の意味、次いで患者からは人生の質(QOL)を、そして現在は看護の道を志す学生たちから「成人の学び」やその支援など、多くの「学び」を得てきた。様々な人生の分岐点があったが、ターニングポイントでは必ず、「もっと学ばなくてはいけない!」ということが自分のキーワードになっていたように思う。現在の私は勤務先である看護学校で出会った一人の学生との関わりを通して、自ら学ぶことで更なる「よりよい教育」の実践を目指したいと考え、大学院進学を決意している。他者の学びを支え励ますという行為こそ、結局は自分の人格を磨き可能性を拓くことに通じていくのだと感じるようになったためである。

離婚し、生活も成り立たなかった人間が、周囲の温かい理解と社会のサポートを得て、自分の可能性を大きく拓くことができた。少子高齢社会の急速な進展により、様々な場面で看護や介護のニーズが高まっている。今後も「看護教育」の場を通じて、お世話になった多くの方々への恩返しのためにも、自分の経験や体験を社会に還元し、自分以上の人材を育てて生きたい。

奨励賞 (五十音順)

＜日本の性暴力サバイバー支援の課題と今後＞

田中麻子さん(性暴力サバイバー支援団体代表)

日米の性暴力サバイバー支援団体に4年間関わった経験を基に、日本の支援の課題について考察した。

性暴力サバイバー支援に関する世界の注目は高まりつつあり具体的な支援が実施されている。そうした世界の影響を受け、日本でも支援が拡充されつつあるが、様々な課題が横たわっている。性暴力という重いテーマを抱え、組織維持や支援体制のあり方、支援者の疲労や性についての考え方・世代間ギャップからくる摩擦や、支援者-相談者間の齟齬など、日本の支援現場が抱えている課題の分析を試みた。日米双方の支援に関わった比較的若い世代の支援者である筆者から見た日本の支援における課題と、よりよい枠組みの中でサバイバーをサポートするための新しい支援のあり方を提示する。

＜戦争に負けた日本を生きてきた私＞

田中秀子さん(日本語ボランティア)

終戦の日14歳だった少女が“女のくせに”“女だてらに”と言われながら、周囲に支えられて、当時のツツウの女性とは少し違った道を歩いてきた。勤務先での男女賃金不平等に怒り、組織に体当たり。相手を説得し納得させる生き方を貫くには、それにふさわしい自分でなければならぬと常に考えてきた。

子育てや介護を終え、社会での役割を自問自答して始めたボランティア。そこで知ったASEANの女性たちは、100年前の貧しい日本の女性たちの姿だ。現在は彼女たちの支援、社会啓発に力を注いでいる。

多くの何の後ろ盾もない女性たちの生き様が、時代を変えてきたということを今の女性たちに知ってほしい、そんな気持ちを伝えたい。

FAX : 03-3434-8082 ※FAXでのお申込みにご利用ください。

公益財団法人日本女性学習財団 宛

パネルフォーラム「学びがひらく」参加申込書

ふりがな		年代
氏名		
住所	〒 _____	
	TEL ( _____ ) FAX ( _____ )	
	e-mail ( _____ )	
所属等		